

KOMAZAWA 駒澤大学1 × 1 明治大学 MEIJI

「気持ち」に勝るものなし

「原点に戻って駒大のサッカーをやる。」秋田監督のこの言葉が今の駒大サッカー部を物語っていた。新体制になってここ3試合、いつものサッカーができていない。初戦こそ勝利したものの、2・3戦は引き分け。両方とも勝てる試合を落としている。

新体制になってからシステムを4・2から3・5・2に変更したり、あらゆる面でチームの内情は変わった。このシステム変更などに戸惑い本来のサッカーができないという事ではない。「3バックは春からやっているのでは問題は無い(菊地)など選手達からはシステム変更に対する戸惑いは全くと言っていい程ない。問題はどこにあるか。ありきたりの言葉で言われているのは王者がゆえのプレッシャー。そんなことではない。そんなことに縛られている選手など居ない。選手自身の気持ちである。別に精神論を語るつもりはないが今の駒大サッカー部にはこれが欠けているのではないだろうか。去年のリーグ戦・Jr.リーグ・エリートなどの試合後、選手の口から出る言葉に必ずと言っていい程「気持ち」この言葉が常に出ていた。駒大の選手にとってこの「気持ち」という単語がどれだけ選手の支えになっているかは説明する必要はないだろう。

今回の試合ではセカンドボールへの対応が勝負の分け目になったと考える。セカンドボールを拾うという事は、攻撃している状況ではボールを跳ね返されても、セカンドボールを拾うことにより波状攻撃を展開することもできる。守備の状況でも似たようなメリットがある。今回の試合でも序盤こそ素早い対応が見られたものの、時間がたつにつれて機能しなくなり、結局同点に追い付きチーム全体が流れに乗った時に再起動した。

「気持ち」この素朴な言葉がチーム全体に再認識され、気持ちを全面に出して戦えば前者の問題など問題にもならない。これからの試合では選手の声・表情に注目したい。ここに注目し何かを感じる事が出来たら心配する事はない。

(永田博義)



最後まで諦めずボールを追いかける田谷。彼のプレーに観衆から拍手が送られた
(撮影・川崎篤彦)

遅すぎた目覚め、問題は気持ち!?